

第10号

2016年11月

学校給食会刊



(写真) 高根沢町立阿久津中学校



編集発行



公益
財団法人

栃木県学校給食会

〒321-0113 宇都宮市砂田町669
TEL.028-656-6511(代)
URL.http://www.tgk.or.jp

Contents

就任あいさつ

公益財団法人 栃木県学校給食会 理事長 佐藤 仁

参考資料 平成28年度学校給食関係行事

お詫びと訂正 投稿 新設校の食育と学校行事

提言 塩谷町教育委員会教育長 伴瀬 良朗

平成28年度 栃木県学校給食調理従事者等食育研究大会

特別寄稿 文部科学省 初等中等教育局
健康教育・食育課 食育調査官 横嶋 剛

行事報告 第11回うつのみや食育フェア

学校栄養士さんからのメッセージ

佐野市立南部学校給食センター (佐野市立植野小学校)

栄養教諭 佐々木 敬子

投稿 (宇都宮市上戸祭小学校)

益子町学校給食センター「ビルマ汁」

栃木をもっと知る! とちぎフードマイスター

就任あいさつ

公益財団法人 栃木県学校給食会
理事長 佐藤 仁



このたび、前理事長の村上雅之氏が矢板市の教育長に就任されたことに伴い、後任として、10月から理事長職を引き継がせていただくことになりました。微力ではございますが、一生懸命、職務を全うしてまいり所存ですので、ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

さて、ご承知のように、栃木県学校給食会は、昭和30年に任意団体として発足後、昭和32年に学校給食法に基づき、国・県の意向を受けて財団法人として新たに設立されました。以来、栃木県教育委員会を始めとして、多くの学校給食関係者の皆様のご指導・ご支援の下、栃木県の学校給食を支える営利を目的としない県内唯一の専門組織として諸事業を展開してまいりました。また、平成25年4月から、念願でありました公益財団法人として、県の認定を受け、新たなスタートを切り、来年には設立60年という節目を迎えようとしております。

その間、県内の校長先生方で構成されている学校給食研究会、所長・場長の皆様で組織されている学校給食センター研究会、そして、学校栄養士の皆様で組織されている県学校栄養士会、各学校の給食主任の先生方等との強力な連携体制の下、学校給食の普及・充実と食育の推進等に関する事業を展開する中で、児童・生徒の健やかな成長の支援に努めてまいることができました。これもひとえに、関係諸団体の皆様方のご指導・ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

私は、昭和30年2月生まれですが、本会が任意団体として発足した年が昭和30年であり、何かご縁のようなものを感じております。私にとって「学校給食とは？」と聞かれれば、三つほどあります。

まず第一に、「脱脂粉乳」と答えます。アルマイトの持ち手の付いた食器に注がれた温かいミルクの表面の薄い膜を不思議だなと思った印象が残っています。

次の記憶は、「三角形で食べるのよ。」と教えてくれた担任の先生の食事作法です。一番目がパン、2番目がミルクや汁物、3番目がおかず、という三角形の順番を繰り返して給食をいただくわけです。私は給食が大好きだったので、ほとんど残したことはありませんでしたが、好き嫌いが多かった友人が食べ終わるまで昼休みに残されていたことも覚えており、当時の食育の方針だったような気がします。

第三の記憶は、「進化した給食」です。「えー給食にラーメン!!?」、「手巻き寿司!!?」、「高級アイスクリーム!!?」と驚いたことがつい先日のようによみがえってきます。定年退職して、給食からも卒業していた私ですが、栃木県学校給食会で給食用食材に触れる機会を得たことは、この上ない幸せであると感じております。

話は変わりますが、先日10月20日及び21日付の下野新聞で、「中禅寺湖のマスのうち特産のヒメマスの放射能のベクレル値が基準値の半分以下に安定的に下回り、釣り人による持ち帰りが来春に解禁される予定である。」ということが報道されました。本会では、福島第一原発事故以来、いち早く放射性物質測定装置を導入し、取扱い食品の自主検査を通して、給食用物資の安全・安心の確保に取り組んでまいりましたが、懸念されていた本県特産の食材の一部に規制の解除が出されたことは、将来へのわずかな光明を見出せたような明るい話題であると思います。しかしながら本会といたしましては、今後ともこのことに安心することなく、引き続き検査の実施を通して安全な食品の提供に努めてまいります。また、福島県の被災地から避難されている皆様方の一日も早い故郷への完全帰還を願うばかりです。

学校給食を取り巻く環境は、異常気象に伴う農作物の価格の高騰や輸入原材料の値上げ、燃料費の高騰、TPP交渉の行方の不透明さなど厳しさを増しております。

本会といたしましては、年度途中での価格値上げを極力避けるため、価格調整積立金の取り崩しによる価格安定に努めるなど、現在の状況や変化に対応しながら、学校現場のニーズにお応えできるよう、より安全・安心な給食用物資の安定供給に努めてまいります。また、食の安全確保に向けた取り組みを更に強化するとともに、食育活動の支援、地場産物を使用した食品の開発等、学校給食と食育の充実を支援する公益事業を積極的に展開してまいります。そうした活動を展開する中で、児童・生徒、保護者の方々から信頼される安全・安心でバランスのとれた学校給食の提供に努め、食育のさらなる充実の支援を目指し、職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

参考資料

平成28年度学校給食関係行事

(公財) 栃木県学校給食会

行事名	期日	場所	対象者	開催者
第67回 全国学校給食研究協議大会	11月10日～11日	秋田県	学校給食関係者	文部科学省、秋田県他
県立学校給食担当者研修会	11月10日	宇都宮市	県立学校給食関係者	県教委
第11回 栃木県健康教育研究大会	12月9日	宇都宮市	学校保健・学校給食関係者	県教委
栄養管理委員会代表者会議	12月13日	給食会	委員	給食会
第3回 栄養管理委員会	2月7日	給食会	委員	給食会
学校給食用パン・炊飯委託加工工場選定委員会	2月10日	給食会	委員	給食会
第3回 品質管理委員会	2月14日	給食会	委員	給食会
栃木県学校給食会理事会	2月16日(予定)	給食会	給食会理事	給食会
第3回 物資員会	2月21日	給食会	委員	給食会
栃木県学校給食会評議員会	3月7日(予定)	給食会	給食会評議員	給食会

表紙の写真の学校紹介

高根沢町立阿久津中学校は、JR宝積寺駅から北に約1キロメートルの丘陵地にあり、鬼怒川が西に流れ、冬には富士山が見える恵まれた環境の中で生徒達は学校生活を過ごしています。「知性の高い生徒」「頼もしい生徒」「志の高い生徒」を教育目標に掲げ、阿久津中学校の生徒であることに誇りと自信をもち、学校や地域、高根沢町を敬愛する生徒をめざして学校生活を過ごしています。



◎ 高根沢町立阿久津中学校

本校では、生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることを目指して、生徒一人一人が正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができる力を身に付けるために様々な取り組みを行っています。

町の学校栄養教諭や学校栄養士による給食の時間での「食指導」を、全生徒対象に実施しています。特に身体の成長過程にある中学生のからだづくりのためには、正しい知識の習得が求められます。具体的な指導によって、一人一人が自覚して、食生活を送るようになってきています。

また、1年生の技術・家庭科では、献立の学習の際、栄養教諭と家庭科担当教諭がT・Tの授業を実施しています。献立作成の注意事項や工夫する点などを専門的な立場から説明していただき、実際に給食の献立を作成します。作成した中から各学級1食、実際の給食の献立に採用されるため、生徒はとも意欲的に取り組んでいます。

さらに、総合的な学習の時間では、地域の特色に応じた課題についての学習活動や体験活動を通して、身近な食文化などへの関心を高める学習をしています。その学習成果の一つとして、昨年は、町の特産物を使用した「豆腐チーズプリン」を考案し、町内の洋菓子店で商品化され、限定販売されました。今年度も生徒は様々な形で、本町の農作物に関心を高め、充実した食生活を考えながら、食への関心を高めています。

お詫びと訂正

※本誌第9号において、那須町立学びの森小学校の記事中の写真を誤って掲載してしまいました。学びの森小学校の皆様にはご不快な思いをさせてしまいました事、心よりお詫び申し上げます。また、関係者の皆様にご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございません。ついでには内容を訂正し、掲載いたします。

投稿 新設校の食育と学校行事

学びの森小学校は今年4月に開校したばかりです。二つの学校（大島小、朝日小）を統合したため、学区は広大になりましたが、地域からの応援はあたたかく、様々な教育活動でお世話になっています。

6月15日には、学校のすぐ東側の水田で田植えをしました。全校児童128名での一斉の田植え。学校と地域をつなぐ学校支援協議会の協力で、地域の方々約70名、総勢200名の地域ぐるみでの田植えとなりました。子供達は、泥だらけになりながら地域の方々と楽しく田植えをしました。



那須町立学びの森小学校

秋の稲刈りまで、草取りをはじめ様々の作業を水田の持ち主の方に指導していただきながら行います。もち米として食べられるようになるまでには、たくさんの手間がかかることを体験とおして学ばせていきます。もち米は、ふかして給食の時間に食べたり、餅つきをしたり、バザーで販売したりする予定です。



また、本校の敷地内には広い畑もあります。畑の先生と児童が呼びしている地域の方の指導の下、土の温もりを感じながら苗を植え、世話と観察を続けています。収穫した野菜を使った献立を考え、調理して食べる予定です。



提言

食育を通じた教育の充実

塩谷町教育委員会教育長
伴瀬 良朗



我が国の『和食』がユネスコ無形文化遺産に登録され、数年が経ちました。南北に長く、春夏秋冬が明確な日本には多様で豊かな自然があり、その「自然に尊ぶ」という日本人の気質に基づき、地域性に寄り添うように「食」に関する「習わし」が受け継がれてきた所似と思われる。

「和食」の特徴の一つに、健康的な食生活を支える栄養バランスがあります。一汁三菜を基本とする日本の食事スタイルは理想的な栄養バランスと言われている。また、出汁による「うま味」を上手に使い動物性油脂の少ない食生活を実現しており、日本人の長寿や肥満防止に役立っております。加えて、正月などの年中行事との密接な関わりがあり、自然の恵みである「食」を分け合い、食の時間を共にすることで、家族や地域の絆を深めてきました。

一方、子どもたちの食の現状に目を向けると、朝食欠食や孤食、肥満等が指摘されています。いずれもライフスタイルが変化し、物に溢れ、便利さを優先したことから、食の重要性への認識や感謝の念が薄れてきたことが大きく関わっている気がしてなりません。

そんな中、食育基本法が平成17年に施行されました。既に10年以上経った法律ですが、6月は食育についての普及や啓発を進めるための「食育月間」と定められ、各地で様々なイベントなどが開催されていますので、こちらの方が馴染みかもしれません。同法は、食育を総合的かつ計画的に推進することで、体や心を健康に保ち、人間性が豊かになることを期して作られた法律です。

このことは、子どもの心・技・体のバランスよい育成のため、根幹を『体』と促える教育に

相通じることであり、それは、学ぶこと、挑戦することなどの気力や体力を育むことと同様に、人間の基礎的な能力を高めることにつながると考えます。

食育は基本的には家庭でなされるものではありますが、教育の根幹ともいえることを考えると、双方からのアプローチが効果的と言えます。学校給食を中核とした食に関する指導と家庭の理解協力の、いわゆる両輪が方向性を一にして推進することで、子どもに限らず大人まで、生涯にわたって心身の健全な生活の確保、豊かな人生を送ることを目指していくことにつながります。

本町では、地域の伝統食と言える「しもつかれ」や、地域の特産物であるヤーコン、にら、味噌、豆腐を使用した給食の提供などを推進しております。また、地産地消の取組を進めながら、生産者と子どもを給食を通してつないできたところ、食を中核としたコミュニティ意識の高揚に資することができ、総合的な教育効果を高めることが繋がってまいりました。こうした学校における食に関する指導は、各市町村や学校において特色ある取組がなされ、これまでも給食の時間はもとより各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において体系的、継続的、計画的に実施されてきました。今後も、学校給食を中核として、それぞれの地域の特性を活かした取組を推進していくことが重要と考えます。こうした和食の心を大切にしながら、地場産業の利活用や地域の郷土食や行事食にも触れたりすることで、家庭や地域も巻き込み、食に関する理解や関心を深めることで、学校教育全体の教育効果が高まることを期待しております。

(公益財団法人 栃木県学校給食会 評議員)

栃木県学校給食調理従事者等食育研究大会

開催日時：8月23日(火)

場所：栃木県教育会館大ホール

主催：栃木県学校給食研究会

共催：栃木県教育委員会、栃木県学校給食会

- ・県内各地から学校給食関係者が約250名参加
- ・学校給食調理員等永年勤続者表彰、講演と講話による研修会を実施



主催者挨拶

松本 和士 会長 (宇都宮市立瑞穂台小学校長)

来賓祝辞

伊藤 満 課長 (栃木県教育委員会事務局 健康福利課)

村上 雅之 理事長 (栃木県学校給食会)



学校給食調理員等の永年勤続者の表彰

学校給食の調理員として勤続15年となる5名が受賞
(表彰式には3名が参加されました。)

永年勤続受賞者 (順不同敬称略)

- | | |
|-------|------------------|
| 大木 勇二 | さくら市立氏家中学校 (欠席) |
| 小島 康則 | さくら市立喜連川学校給食センター |
| 赤羽 幸生 | 日光市立湯西川中学校 |
| 石澤みち子 | 壬生町立壬生東小学校 (欠席) |
| 並木 舞 | 宇都宮市立上河内学校給食センター |



前列向かって左から
小島 康則さん 赤羽 幸生さん 並木 舞さん



児童代表の感謝のこトバ (6ページ)

宇都宮市立瑞穂台小学校6年生 向かって左から
田澤 芹香 さん、川俣 玉恵 さん、
永野 殊都 さん、薄井 りみ さん の4名

演題 「学校給食を教材とした食に関する指導と衛生管理」

栃木県教育委員会事務局 健康福利課
指導主事 塚原 治子先生



演題 「感謝を持って作る、食べる」

湯島山 緑泉寺 住職 青江 覚峰 先生

感謝のこトバ

いつも給食を作ってください調理員の皆さんに私たちの感謝の気持ちを伝えます。



ぼくは貝類のアレルギーを持っています。三年生のとき、給食の時間にクラムチャウダーを食べたら気分が悪くなり、病院にいったら、貝類のアレルギーが見つかりました。それから、クラムチャウダーや貝類が入っている給食を食べるのがこわくなりました。

でも、栄養士の先生や調理員さんたちが、アレルギーを持つためのだけに、貝のエキスなしのドレッシングやスープを作ってくれました。そのおかげで、給食を食べるのがこわなくなり、給食の時間が待ち切れないぐらいに好きになりました。

ぼくは、これからも、給食を残さず、おいしくいただきたいと思います。

瑞穂台小学校 六年 永野 殊都



私は調理員さんに伝えたい「ありがとう。」があります。それは、いつも温かいご飯やパン、夏には冷たい野菜やくだものなど、おいしい食材を選び、調理して下さることです。地元のとれたての野菜や、おいしい海の幸、山の幸を私たちのために一生けんめい調理して下さり、私たちは幸せだなあと思います。

私のクラスのほとんどの人が給食を残さずに食べられます。私の学校の給食は、本当においしくて、みんなが毎日、給食の時間を楽しみに待っています。校舎の4階にいても1回の給食室からいいにおいがしてきて、調理員さんが一生けんめい給食を作ってくださいしているんだなあとと思うと、勉強にもやる気が出てきます。

今は調理員さんに二つの「ありがとう。」を伝えましたが、本当はもっと数えきれないほどの感謝があります。ありがとうございます。

私たちは今、成長期なので、おいしい給食をたくさん食べて、心も体も元気に成長していきたいです。これからもどうぞよろしくおねがいします。

瑞穂台小学校 六年 薄井 りみ



私は、給食の時間に、この中には、何が入っているかなをよく見たり放送で聞いたりしています。主にごはんの中などには、しつや炭水化物など栄養になるものがたくさん入っています。給食を作ってくださいる人達はみんなが健康にすごせるように心をこめて作っています。

私はできるだけいつもおかわりをして残り物が出ないように心がけています。これからもできるだけ栄養になる食べ物を残さずに食べたいとおもいます。給食をつくってくださいる人達にすごく感謝しています。

ありがとうございました。

瑞穂台小学校 六年 川俣 玉恵



いつも朝早くから美味しい給食を作ってください、ありがとうございます。

毎日のように「今日の給食は何かな」とワクワクしながら待っています。皆の大好きな「揚げパン」などが献立表に載っていると一時間目からとても待ち遠しいです。食材をカットする大きさを工夫して、私たちの好き嫌いをなくして下さったり、食物アレルギーがある人には、他の食材を使って料理して下さったりしています。

他にも地産地消を心がけて下さったり、その季節にしか食べることのできない、旬の食材を使って料理して下さったりするので、とても美味しいです。

いつも美味しい給食を作ってくださいる調理員の方々へ感謝の気持ちを忘れずに給食を味わって食べたいと思います。

瑞穂台小学校 六年 田澤 芹香

調理員の皆さん、これからもお体に気をつけ、おいしい給食を作ってください。よろしくお願いします。

学校における食育の推進

文部科学省 初等中等教育局
健康教育・食育課
食育調査官 横嶋 剛



(はじめに)

子供たちを取り巻く社会環境が変化し、健康に関する問題が山積する中、食に関しても、子供の食生活において朝食欠食、偏食、孤食などの課題が生じており、学校においても食育を推進することが強く求められています。

国においては、食育を国民運動として推進するために、食育に関する施策を進める上での基本理念、関係者の責務、施策の基本的な方向を明らかにした食育基本法を平成17年に制定しました。

それから10年が経過し、文部科学省では、平成27年10月のスポーツ庁の設置に伴い、学校給食及び食育等に関する業務が初等中等教育局に移管され、従来の「学校健康教育課」の課名が「健康教育・食育課」に変更されたことから、この機会に食育の一層の推進を図りたいと考えています。

(食育基本法と第3次食育推進基本計画)

食育基本法の前文には、子供たちが豊かな人間性を育み、「生きる力」を身に付けるためには、何よりも「食」が重要であること、また、「食育」が生きる上での基本であって知育、徳育、体育の基礎となるべきものと位置付けられることが明記されています。

食育基本法では、食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、食育推進基本計画を策定することになっており、現在、平成28年度から平成32年度までの第3次計画が始まったところです。

本計画では、これまでの10年間の取組による成果と、社会環境の変化の中で明らかになった新たな状況や課題を踏まえ、15の目標と21の具体的な目標値が掲げられましたが、そのうち学校において、直接的に関係するものとしては、①朝食を欠食する子供の割合、②学校給食における地場産物の活用割合、③学校給食における

国産食材の活用割合、④中学校における学校給食実施率の4つが掲げられていますので、これらの取組を重点的に推進していきたいと考えています。

(栄養教諭の配置促進)

文部科学省では、平成17年度に栄養教諭制度を創設し、栄養教諭の配置促進に努めてきました。そのような中、平成20年度には学校給食法が改正され、栄養教諭が食に関する指導を行うことが規定され、その役割がより明確化されました。これらを契機として、年々栄養教諭の配置数は拡大し、平成28年5月1日現在、全国の公立学校に約5645人が配置されています。

栄養教諭は、学級担任や各教科担任と連携して関連教科や特別活動等において食に関する指導を行うことに加えて、学校における食に関する指導の全体計画の作成や家庭や地域と連携した食育の推進など、学校での食育推進におけるコーディネーター的な役割があり、学校における食育の中核を担う職として期待されています。今後さらに、栄養教諭の配置促進に努めていきたいと考えています。

(むすびに)

食育の推進については、国民運動として全国民が取り組んでいくことが必要であり、保護者や地域の方々からの期待や関心も大変高いものがあります。

特に若者の食生活の乱れが大きな課題となっている今日、学齢期における学校での食育は、子供たちが食に関する正しい知識と適切な判断力を身に付け、生涯を通じて健康な生活を送ることができるようにする上で極めて重要な教育活動であると考えています。

今後とも、子供たちが豊かな人間性を育み、心身ともに健全な発達を目指し、全ての学校において食育が推進されるよう取り組んでいきたいと思ひます。

行事報告

第11回うつのみや食育フェア

平成28年10月2日(日)、宇都宮城址公園とバンバひろばで、「第11回うつのみや食育フェア」が行われました。

給食会は宇都宮市城址公園内のテントに出展しました。当日は晴天に恵まれ、10月なのに夏のような陽気でした。

食に関するゲームと学校給食の年代別献立フードモデルの展示を行いました。たくさんの方が訪れて、ゲームを楽しんだり、給食について学んだりして頂きました。



ゲーム紹介

● 箱の中身は何だベジタブル

箱の中の見えない状態の野菜や果物を手触りで当てるゲームです。



● 給食の年代順当て

過去の学校給食の献立(カード)を年代順に並べるゲームです。

● 花で選んで果菜

花の写真カードからその花を咲かせる野菜や果物を当てるゲームです。



伝えていきたい思い

佐野市立南部学校給食センター
(佐野市立植野小学校)

栄養教諭 佐々木 敬子



栃木県の学校給食、そして学校給食会との繋がりは全国的にも誇れる素晴らしい事だと思います。その中で心に残る3つの実績を振り返り紹介したいと思います。

私の最初の勤務は葛生町学校給食センターで約2000食の給食を作っていました。小学校7校、中学校2校、保育園の給食が5園で300食あり、管轄が厚生労働省と文部科学省の違いで献立表から発注書も2本立てで複雑な事務処理に頭を悩ませていました。その当時は栄養計算やお金の計算もそろばんか電卓を使っていて、月報は早見表を使って工夫しても計算するのに10日間ほどかかりました。ちょうどその頃、学校給食会で給食管理システムの検討委員会が立ち上がりました。各分会から代表者が出で、コンピューターのことは何も知らない素人の栄養士たちが、こんな作業が出来たら良いと思うことを好き勝手に言ったにも拘らず、全国に先駆け、栃木県のオリジナルの素晴らしいコンピューターのシステムを作っていただきました。さっそく葛生町では予算を取ってその当時のオフィスコンピューターを入れていただき、必死でコマンドの打ち方から習ったことを覚えています。お陰様で10日かかっていた月報はデータを入力すれば5分で計算されて出てきますし、私にとっては魔法のようなシステムで救世主となりました。まだ食育という言葉はありませんでしたが学校を訪問したりする時間が取れるようになり、本当にありがたいことでした。

食育の教材作りでは、センター研究会の栄養士部会で毎年、代表者が集まり教材作りをしました。紙芝居「ケンちゃんシリーズ」ではオリジナルの紙芝居を6作品作りしました。平成17年に栄養教諭が誕生し、朝ごはんの喫食率を上げるために行われた授業の中でケンちゃんシリーズ「しっかり食べよう朝ごはん」が使われているのを見て、あの時、紙芝居のモデルになった保育園生のケンちゃんは30歳を過ぎていることを思うと何年も前に、栃木県では先進的な取組をしていたんだなと思ひ、改めて感慨深いものがありました。

栄養管理委員会では先進地の視察で山形県の和合平のりんご生産者の方々に無農薬栽培にかける熱い思いを聞いたことが心に残っています。その方は「北の国から」に出ていた俳優さんにも顔もしゃべり方もそっくりでドラマの一場面を見ている様でした。和合平りんご生産者の方々のご厚意でりんご狩りを体験しました。栄養管理委員の皆さんが興奮して他所のりんご畑の珍しいりんごまで取ってしまいご迷惑をかけてしまったことは今でも語り草になっています。

数々の先進的な取組をしてくださった給食会のお蔭で栃木県の栄養士は多くの恩恵を受け、食育の推進にも力を注いでいけるのだと思っています。

栃木県の学校給食がさらなる飛躍をしていくことを願いつつ、周りの方々の多くの支えがあって今の学校給食があることを伝えていきたいと思っています。

投稿

ランチルームでの交流給食

宇都宮市立上戸祭小学校は、今年度、ランチルームを拡張しました。これまでランチルームでは、学校栄養職員による給食指導などを中心として行ってきましたが、それに加えて今年度より同学年児童が集う「学年給食」、6年生と1年生など異学年の交流を深める「異学年交流給食」、地域の方を招いての「ふれあい昼食会」、親子の絆を深める「親子給食」など様々な交流給食ができるようになりました。また、2学期からは、友達を増やすことを目的として、交流給食の相手クラスを抽選で決める「シャッフル給食」なども行う予定です。

これらの交流給食を通して、児童が様々な友達や人とのコミュニケーションを深め、楽しい学校生活を送ることを期待しています。

異学年交流給食（2年生と5年生）



親子給食（6年生）



益子町学校給食センター「ビルマ汁」

9月18日に益子町学校給食センターで「ビルマ汁」の試食会が開催され、本会職員も試食させていただきました。赤々に熟したトマト、夏野菜の代表格ナスやインゲン、地元産のジャガイモやニンジンぶつ切りにし、和風だしで煮込みます。トウガラシで辛味を出し、カレー粉で風味を付け、出汁のきいた熱々で辛味のあるスープは後を引く美味しさです。

※給食では辛みを抑えてあります（トウガラシ抜き）。

【レシピ 小学校1人前】

豚小間肉	15g	ダイストマト	10g
サラダ油	0.6g	カットいんげん	5g
玉ねぎ	30g	カレー粉	0.5g
人参	20g	だしの素	1.5g
じゃがいも	30g	食塩	1g
なす	10g	水	125g
トマト	10g		

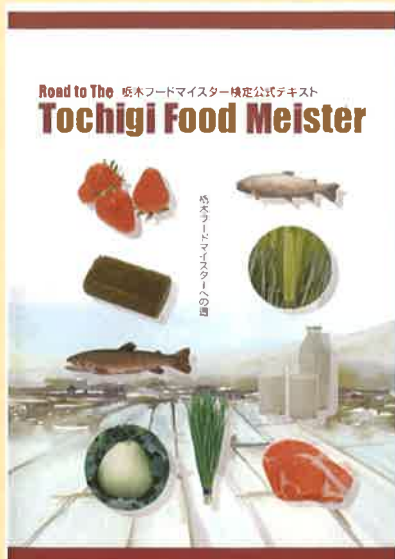
この日のメニューはつけ麺でした。



詳しくは「益子のビルマ汁」<http://www.mashiko-burma.com/>

栃木をもっと知る!

とちぎフードマイスター



皆様は「とちぎフードマイスター検定」をご存じでしょうか。

この資格は、栃木県産の食材を知ることによって自身の食生活に役立てていただくための制度です。食材の特徴や栄養はもちろん、栃木の農業や畜産業についても触れているため、栃木県の「食」について効率的に学習することができます。

本会職員でも既に資格を取得している者もおります。地産地消が強く求められる今、栃木県をより深く知るための一つの手段として是非ご検討ください。

○お問い合わせ先

NPO法人 栃木県フードマイスター協会

〒321-0901 栃木県宇都宮市平出町3579
(学校法人 三友学園 内)

TEL : 028-613-6651 FAX : 028-666-4030

URL : <http://www.food-meister.jp/>

皆様の声・意見・ レシピなどを 大募集します

学校給食レシピや食育、料理紹介、食べ物自慢など食に関する内容であれば何でも結構です。

- ・文字数は200～300字で形式は自由です。
- ・応募は学校教育関係者であれば、どなたでも応募できます。
- ・提出方法は、栃木県学校給食会宛てに郵送かFAX・メールでお願いします。
- FAX : 028-656-2311(代)
- Email : webmaster@tgk.or.jp
- ・次回は1月13日(金)を締め切りとさせていただきます。
- ・採用させていただいた方は、粗品を差し上げます。



編集者より

暑い夏が終わり、過ごしやすくなったと思ったのもつかの間、急に肌寒くなってしまいました。紅葉の季節を迎え、冬がすぐそこに感じられる中、忙しい日々を過ごされていると思います。

今号では、本会評議員の塩谷町教育委員会教育長 伴瀬良朗 様にご提言を、文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 食育調査官 横嶋剛 様に特別寄稿を頂戴しました。心より厚く御礼申し上げます。

第9号において、那須町立学びの森小学校様からご提供いただいた原稿の内容に誤りがあり、同校および関係者の皆様には大変なご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。今号で訂正し再度掲載させていただきます。

本冊子は皆様より頂戴した原稿や投稿で成り立っております。今後も様々なご意見をいただき、行事紹介や食に関する特集を併せて「給食会だより」を発行していきたいと思っておりますので、引き続き、関係者の皆様のご協力をお願いいたします。